

3年	科目	社会と文化	講義	通年	担当	野澤正信, 鈴木 登, 佐藤崇徳, 平田陽一郎 M. Nozawa, N. Suzuki, T. Sato, Y Hirata
物質工学科		Society and Culture	必修	2履修単位		
授業の概要						
本授業科目は、国際社会を生きるにふさわしい教養を培うための総合科目である。我々がおかれている現代社会の風土、コミュニティ、社会構造、思想・文化を、哲学、歴史学、地理学、経済学などの人文・社会科学および自然科学をも含めた学際的な視点から論じる。社会の多面的な諸相に触れながら知的好奇心を高めさせることを目的とする。複数の教員が各々の専門分野から題材を選び7～8講を担当するオムニバス形式の授業科目である。						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
	○	1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)	実践指針 (プログラム対象科目のみ)		実践指針のレベル (プログラム対象科目のみ)			
授業目標						
<p>心の問題、とくに青年期の心の問題について理解できる。 古代から近代にいたるさまざまな自然観の変遷が理解できる。 世界の諸地域の風土、歴史を理解し、多面的なものの見方ができる。 世界の諸地域の文化、宗教を理解し、異文化の理解に努めることができる。 現代社会の諸問題に対して積極的に関心を持つことができる。</p>						
授業計画						
第1回	人間と自然	(1)人間とは何か — 人間の定義				
第2回	"	(2)心のはたらきと心理療法				
第3回	"	(3)心のはたらきと知覚				
第4回	"	(4)心のはたらきと論理				
第5回	"	(5)心のはたらきと宗教				
第6回	"	(6)自然観 1 要素論				
第7回	"	(7)自然観 2 原子論				
第8回	"	(8)自然観 3 目的論と機械論				
	前期中間試験					
第9回	日中交流二千年	(1)倭奴国と邪馬台国				
第10回	"	(2)三国志の世界				
第11回	"	(3)遣隋使				
第12回	"	(4)遣唐使				
第13回	"	(5)蒙古襲来				
第14回	"	(6)倭寇と勘合貿易				
第15回	"	(7)日清戦争から日中戦争へ				
	前期末試験					
第16回	企業と資本	(1)会社って何?				
第17回	"	(2)株主とはどのような存在か?				
第18回	"	(3)株式市場と株価				
第19回	都市と公共交通	(1)都市と公共交通の現状と課題				
第20回	"	(2)進化した路面電車—LRT				
第21回	民主政治のあり方	(1)選挙権年齢引き下げと年代別投票率				
第22回	"	(2)竹富町の役場移転問題を題材に民主政治のあり方を考える				
	後期中間試験					
第23回	アメリカ合衆国	(1)日本とアメリカ(過去～現代)				
第24回	"	(2)アメリカ合衆国の歴史 ①建国				
第25回	"	(3)アメリカ合衆国の歴史 ②先住民族問題				
第26回	"	(4)アメリカ合衆国の歴史 ③黒人問題				
第27回	"	(5)アメリカ合衆国の歴史 ④覇権国家の時代				
第28回	"	(6)現代アメリカの政治体制				
第29回	"	(7)現代アメリカの社会と文化				
	学年末試験					
第30回	まとめ					
評価方法 と基準	各教員が担当分について試験等で評価をおこない(各22.5%)、それらを合算して全体の評価とする(90%)。また、学習姿勢としてワークシートの記入・整理状況も加味する(10%)。					
教科書等	『私たちが拓く日本の未来』(総務省・文部科学省)を授業の一部で用いるほかは、教科書は使用しない。 適宜、プリントを配付するほか、ビデオ等を用いる。					
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。					